

## 「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考えよう」』

サブテーマ

- ①長野県の誇る健康・長寿について
- ②長野県を支える産業について
- ③みんなが憧れる長野県での暮らしについて

日時 平成24年6月6日（水）午後5時30分から7時45分まで

場所 松本市あがたの森文化会館 ホール

目次

1	事前説明 .....	1
2	知事あいさつ .....	1
3	第1ラウンド開始 .....	2
4	ワールド・カフェ方式による意見交換 .....	3
5	まとめ発表 .....	3
	（1）長野県の誇る健康・長寿について テーブルB .....	3
	（2）長野県の誇る健康・長寿について テーブルC .....	4
	（3）長野県を支える産業について テーブルA .....	4
	（4）長野県を支える産業について テーブルD .....	5
	（5）みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルB .....	5
	（6）みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルD .....	6
6	全体意見交換 .....	6
	（1）参加者の意見1 .....	6
	（2）参加者の意見2 .....	7
7	知事あいさつ .....	7

## 1 事前説明

### 【司会】

皆さん大変お待たせいたしました。お忙しいところ、本日は県政タウンミーティングにご参加いただきまして大変ありがとうございます。本日進行役の広報県民課長の角田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日の進行でございますけれども、阿部知事からごあいさつを申し上げまして、その後にご存知のとおり『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考える」』これをテーマに意見交換をしていただきます。念のため申し上げますけれども、この場でのご発言につきましては、お名前など個人情報を伏せさせていただきます。後日ホームページ上で公表させていただきますので、ご承知おきをいただきたいと思います。

本日の意見交換の仕方ですけれども、ご説明、もうそれぞれのテーブルでさせていただいていると思っておりますけれども、いろいろなアイデアを伺いたいということでワールド・カフェ方式という方法をとらせていただいております。テーブルごとをお願いするわけですけれども、ご自分とは異なるご意見、こういったものも出ると思っておりますけれども、反論ですとか、否定ですとかそういうことではなくて、共通点を探すというスタンスで、お立場で臨んでいただければということで、お願いしたいと思います。

20分から30分程度の意見交換の場を3回、ラウンドと言いますけれども、3回設定してございます。第1ラウンドにつきましては今お座りいただいておりますテーブルで、その後、席を移動して第2ラウンド、そして最後にもう1度戻っていただきまして第3ラウンドという設定でございます。テーブルごとの意見交換の場というのも時間の許す限りお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上が本日の大きな流れでございます。

それでは、阿部知事からごあいさつを申し上げます。

## 2 知事あいさつ

### 【長野県知事 阿部守一】

皆様こんばんは。今日は、県政タウンミーティング「20年後の長野県を考える」ということで、大変大勢の皆様方にご参加をいただきましてまずは、大変ありがとうございます。私も、知事、もう少しで丸2年経つわけでありましてけれども、できるだけ県政と県民の皆様との距離を近づけたいということで、いろんな取組をさせてきていただいております。今もiPadを持ってきていますけれども、ツイッターでつぶやかせていただいたりですね、あるいはお昼を食べながら県民の皆様とお話をさせていただいたりとかですね、あるいは今度県政モニターを1,000人規模で、モニターを無作為抽出で選ばせていただく方と、それから自分は是非やりたいという人と二本立てでお願いをさせていただいて、いろいろなご意見・ご提言を直接ですね、県民の皆様からいただいたりということで、まだまだ工夫していかなければいけないわけですが、できるだけ県庁と皆様との距離感が広がらないように努力をしてくれているところであります。

今日もこういう形でタウンミーティングを開かせていただいたわけですね。通算20回目、延べご参加いただいた皆様方1,500人ということで、この中には複数ご参加いただいた方もいらっしゃると思っておりますけれども、これからもそ

うした形で、県民の皆さんと一緒に考えて考える県政でありたいと思っています。今日は中期計画を今まさに検討している真っ最中でございますので、皆様方の知恵をお借りしたいということでこういう形の設定にさせていただいております。

20年後というふうにしたのは、いくつか意味がありますけども、私の思いとしてはですね、来年の長野県を考えると、5年後の長野県を考えると、形だと、どうしても今の制度・仕組みを前提に考えていかないと、急に世の中変わらないですから、そうするとどうしても現状維持型の発想になりがちです。20年後、これは市町村長の皆さんとも意見交換もさせて頂いていますが、市町村長の皆さんが20年後なんて言われても分からないという意見もあったんですけども、確かに分かんないです。分かんないことがいっぱいあると思いますが、けど私はやっぱり、こういう社会にしたいなという強い思いがあって、そして県民の皆さんと力を合わせてその実現に向けて進もうということになれば、いろいろな社会的な要素とか経済変動ありますけども、必ず私はそういう社会になるだろうと思っています。逆に、どういう社会にしたいかという思いなしに、なんとなくその日暮らしのような形で、明日どうしようとか、来年どうしようとか、そういうことだけ考えていると、どれだけ毎年努力しても決して望ましい社会、望ましい長野県にはならないだろうと思います。そういう観点で20年後の長野県を是非皆さんと一緒に考えていただいて、できれば、そこに向けてのどういう一歩を踏み出すべきかということをお皆さんと一緒に語り合いたいと思っています。

今日はワールド・カフェ方式ということで、テーブルを入れ替わったりさせて頂いて検討するわけですけども、私も何回かこういう方式をやらせていただいて、大体同じ意見がいっぱい出てくるんですね。いろいろな人のいろいろな意見がありますけども、180度違う方向性がないという人は、そんなにはいないなと思っています。ただ、具体的な手法論とかですね、今の課題に対する認識とか、もちろんいろいろ違いがあるわけですけども、やはり大局的に見たときの方向性というのは、大体同じ方向性が見えてくるのではないかなと楽観視をしています。

どうかそれぞれの発言、なるほどなど、これは私もそうですけれども県の職員にも是非県民の皆さんと共感し合える県の職員になってくださいと共感力をつけてくださいと言っているんですけども、いろいろな人と話をするとやっぱり「なるほどそういう見方もあったのか」とか「なるほどこういうやり方もあるね」というのは、いろいろ気付きがあると思いますので、皆さんで多くの気付きをしていただいて大きな方向付けをしていただければと思っています。

今日は限られた時間ですけども、有意義な時間となりますことを期待して冒頭のあいさつといたします。

よろしく願いいたします。

### 3 第1ラウンド開始

#### 【司会】

それでは意見交換に入らせていただきます。

先ほど申し上げましたけれども意見交換が活発になりますように、発言は簡潔にしていただきながら、相手を否定することなく、そして楽しく会話し

ていただければと思います。  
(以下、司会の発言を省略します。)

#### 4 ワールド・カフェ方式による意見交換

サブテーマごとに3つのグループに別れ、さらに各グループ内で4つずつのテーブルに別れて意見交換を行いました。  
参加者のご意見等については、別に「ご意見の概要等」や「ご意見の反映状況」として公表しますので、そちらをご覧ください。

#### 5 まとめ発表

各グループから、くじ引きで2テーブルずつ発表テーブルを決定し、該当テーブルから発表者1名が意見交換の内容を発表しました。  
発表できなかったテーブルへは、司会から補足意見があれば発言するように求めました。

##### (1) 長野県の誇る健康・長寿について テーブルB

あるべき姿のキーワードということで、育てる力のある長野県ということです。信州のありのままの中にあるすごい価値を見いだして語り継ぎたい。価値観の転換、経済競争から心・生活・農業・林業に向けたもの。それから、優しい街づくり、老人や障害のある方を中心とした街づくりはできないものか。生涯にわたり各年代で地域の価値や思いやりを育てる仕組みが作れば。それに対しまして問題としては、忙しいという感じをまず無くしたいということ、経済優先の価値観を転換すること、農業を農民を守ること、そして育てること、林業、森を守るということが出ております。

それから、キーワードとして、安心な子育ての環境づくりということが挙げられております。いろいろ、結婚年齢とかありますが、誰もが安心して結婚し、そして安心して子育てができる支援体制というものが、20年後にできていけばいいのではないかと、それから老人、シニアの方から引き継がれる伝統文化、食文化ですとか、コミュニティーの面ですね、そういったものが、今後、より強く結びついていけばいいんじゃないかということがでております。それについて、雇用の安定、それから、老人との同居の核家族化によるコミュニティーの失いといいますか、そういったことが障害となると出されています。

山間地でも安心して暮らせる長野県ということで、老人が夜間だけ共同して暮らせる施設を、若者が結婚できる生活保障、地域コミュニティーを成熟させる、というアイデアが出されております。それに問題としては、県・町村の財政基盤、男性の社会参加を積極的にできるようにする、高齢者の知恵と力を信じるというような意見が出されております。

若干似ておりますが、高齢者の輝く長野県ということで、健康で元気な老人の知恵や技術を次世代に伝えていただきたい、介護を家庭で、また地域で

できるようグループホーム等、お互いを助け合いながら暮らすこと。それから障害となるものは、金銭的な問題と地域の方の全員の理解と協力が挙げられております。

最後ですが、高齢者も障害者も、生まれた地域で生活できる、高齢者が元気で自ら知識、技術を活かせる地域づくりをしたい。アイデアとしては、食生活の改善、本県の食生活の見直し、良い部分での食生活の見直し、障害となる今後の問題としては、本当に高齢者、障害者が生まれた地域で生活できる受け皿が整備されているかというところが出されております。

## (2) 長野県の誇る健康・長寿について テーブルC

キーワードはですね、やはり食によって老化を防ぐような長野県。このことが、健康寿命延伸につながるんじゃないかと、それによってですね、県民として永住できるような、永住するような、したいような県にしていきたいということでございます。

それから、健康というものを考えたときに、食べられること、味わうこと、このことができることが真の健康であって、経管栄養の食事だとかそういうことではなくて、真の健康を求めたいと。これは口の健康から始まると。その中で、やはり食文化の伝承をこれから考えなければいけないんじゃないかと。この中で、やはり老人の知恵が若い世代へ引き継がれるような豊かな社会を望んでいるというのが実態です。

それから、県がこれらの意識改革のために、県民はじめ関係団体の皆さんの意識改革が大切だと、意識改革をしていただいてですね、われわれの目指すところの永住したくなるような長野県、食の大切さを知って健康で生活できるような長野県を目指したいということでございます。

やはり家族それから近隣の人たちとのですね信頼関係、絆関係、コミュニケーションをですね、食を通して回復したいということで、やはり私たち動物として、人間として、本来の姿に戻ることの大切さを今日の話し合いの中で知ることができました。

## (3) 長野県を支える産業について テーブルA

20年後の長野県のあるべき姿は、長野県民それぞれ一人ひとりが、ふるさとを誇りを持っていい国だと言えることだと思います。そのためには、もう少し長野の人は信州について理解すべきで、あとPR力が足りないということも出てきました。このPR力を改善するために、若者の力や老人の力、皆さんの力を利用していただけたいと思います。

他にも農業や工業の発達がまだうまくできていないということも出てきました。地域の森林を守ることや工業の大切さを皆さんで知ること一つの方法としては、良い方法なのではないでしょうか。そのために今、問題になっていることというのは、やはり長野県民の皆様のもう少し深い理解ということですかね。もう少し信州について理解を皆さんがしていければと思います。

あと、情報発信が非常に県外への発信が不足しているので、そこも今後良くしていけたらいいと思います。

#### (4) 長野県を支える産業について テーブルD

住んでいる人が楽しいと思える長野県。これを目指していきたいと思います。

今まで経済的な繁栄を唯一の価値として発展してきましたが、本来その経済的な豊かさと幸せというのは別なものじゃないかなと考えております。今、地域間、国内はもとより国外との競争が激化して、経済的な繁栄のみを謳歌するというのはなかなか難しい状況になる中、じゃあ本当の幸せを求めためどうすればいいか、もちろんその経済の発展は重要でありますので、そういった観点から、平成の士農工商連携事業にもっと力を入れるべきではないかなというふうに考えております。

具体的に申し上げますと長野県の宝、農業であれ、林業であれ、いっぱいございます。それを今まではその個々の農業の方、林業の方が切磋琢磨して活動してきましたが、それをですね、工業の方にもタッグを組む、工業は工業で今まで切磋琢磨して皆さん素晴らしい会社を運営されていますが、そうではなくて、農業であり、工業であり、そして販売のプロである商業であり、皆さんがタッグを組んで連携してやっていると。その中で新たな魅力が出てくる。例えば木材で言えば切り捨てるだけの間伐材が、実は切り口を変えればエネルギーになったり、例えばそういう間伐をする作業を紹介することによって、それが癒しというテーマの観光になったり、いずれにしても農業、工業、商業、全てが連携して新しい価値を見出していくこと、そしてそれをサービス業の観光業が伝え、体験してもらい、長野県を好きになってもらい、そうすればIターンが増える、人口が増える、われわれがみんな楽しいと思えば、当然子どもも増えてくる、そうすれば税収も上がっていくと。

もとより長野県は安心安全な県でございますので、そういった夢が持てる産業が育成されれば長野県についてはもっともっと繁栄していくのではないかなとそのようにこのテーブルでは考えております。

#### (5) みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルB

いろいろ意見が出ましたけれど、共通してキーワードとしてあがったものが、「つながり」というものでした。つながりが目に見えて感じ取れる、そういう信州がいいんじゃないか、ということです。「つながり」については、この後また話しますが、そういうつながりが感じられる信州になれば、きっと安心して暮らせる状態になるだろうと、状態としては安心して暮らせる信州。そして、暮らし方のスタイルとしては、身の丈に合った暮らし、場合によっては自給自足という言い方になるかもしれませんが、そういったものが、やはり、よそから見てもきっといい、憧れる信州になるんじゃないかと、そういうことです。

「つながり」ということなんですけれど、「つながり」ということがキーワードになるということは、要はつながっていないから、つながりたいということかなあとと思います。要するに、いろいろなミスマッチがあると。だから、つながっていないものをつなげていくことが必要で、それは例えば、世代間であったり、若い人とお年寄りの方々、あるいは異業種だったり、異業種というのは、同じ業種の中でもいろいろあつたりするんですが、あるいは農業とか工業とか商業とか、そういったものですね。そういったものをつなげていく。あるいは、ニーズのある人とシーズのある人がいるものをつなげ

ていくというのがあります。例えば、手入れのできない森林を持っている所有者と手入れをしたいけれど何も持っていない人たち、あるいは土地持ちの農家と農業の担い手みたいな、そういったものをつなげていくというものがあるんじゃないかと思います。

その時にどうつなげていくかで、いろいろあると思いますが、一つ出たのは、やはり行政の力は大きいねということです。行政の持つ、あるいは我々が行政に伝えていかなければいけません、一つは情報。それと、やはり、行政が間に立つということにより生まれる信頼感、これはものすごく大きいものがあって、だから、行政任せにはするんじゃないけれど、自ら動いて行政を活用しようと、そういうのは必要じゃないかな、というのがこのグループの意見でした。

#### (6) みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルD

主に、20年後ということ、子どもが20年後には大人になるということ、その時にもこの信州で暮らしたいと思う、魅力ある長野県、他にない魅力がある長野県ということ 키워ワードにしていきたいと思います。

そのためにはですね、まず地域の人が地元の魅力を語ってもらうということも大切ですし、それをどんどん外に発信していく、特に山岳景観なんかは世界に誇れるものですから、こういうものをもっと積極的に発信してですねいきます。

あとは、年配のじじばばが孫を外に連れ出して自然と遊ぶというふうな、教育のところでもう少し工夫が再構築ですねしていく必要があるのかなと。特に今親の世代といとなかなか自然と接してないところもありますので、そういう人に、親に子どもから教えるみたいなどのシステムですね、若い人の発想を活かす場をもっと積極的に作っていったらいいのかなという、それでそういう地元の魅力を発信していくということで、住んでいる人にとってもメリットがあるということですし、まずそういう教育をする人が自然体験とかそういうことを積極的にやっていく必要があるのかなと、今はその辺が少し欠けているんじゃないかなと思いますのでその辺の教育が必要じゃないかなと、親の世代の教育が必要じゃないかなというふうな結論になりました。

## 6 全体意見交換

### (1) 参加者の意見1

私、山小屋をやっております、山の代表で今日この席に来ておりますが、やっぱり長野県というのはですねこの山なくしては長野県はたぶん語れないと思います。私、山小屋やっている者がそういうのもちょっとおこがましいのですが、全国から年間20万以上の方がこの北アルプスに見えていますが、本当に去年も10月の連休の時には、私も見たことのないような登山者が、テントの方が大勢いらっしゃいまして、これは涸沢の紅葉を見に来たからなのですが、全国から約2,000人の登山客が来まして、テントも1,000張位来ております、やっぱりすごいみんな山登る人に対しては良い所なのかなと改めて認識しましたがけれども、それだけ登山者が訪れると、穂高の山もだいぶ厳しいものですから、事故も随分多いんですね。我々も遭難対策協議会のメン

バーなので、しょっちゅう救助とかそういうのに出るんですけども、大勢私どもも命をかけて助けてきたりいろいろとしていますが、なにぶん県の補助金がですね少しカットされていて、たぶんこれは事業見直しということでやってらっしゃると思うのですが、私たちが命がけで無線で現場から警察とやりとりをする無線機も買えないような状況になっているので、今日は県知事さんが遭難対策協議会のトップの方がいらっしゃるので、直接山からの、タウンミーティングのメインとちょっとかけ離れちゃって申し訳ないのですが、ちょっとそんな山小屋の小屋番の話をちょっと聞いてもらえればと思っ、一言言わせてもらいました。

## (2) 参加者の意見 2

今日の話し合いで3つのグループに分かれていましたけれども、各グループで今日の話し合いでいろんな問題が浮き彫りになったと思います。そこでこのグループでは、じゃあどうするかということ、具体的な案のようなアイデアが出まして、それをちょっと紹介できたらなと思いました。

どんなことがあるかということ、元気なお年寄りをいろんな場に活用するだったり、つながりが薄くなっているという今のこの現状の中で、じゃあ実際どうするか、またこちらの方の話にもありましたけれども、社会全体、市民全体の意識を変えていく必要があるという話だったのですけれども、そこでどうするかということで、カフェが良いんじゃないかという話が出ました。

なぜカフェが良いかということ、地域の中でほっとできるスペースが、交流場があるといいんじゃないかということで、誰もが通えるところ、また今回のこういう場も是非その一つだと思っんですけども、もっといろんな地域でそれこそ、市・町・村の単位でこういう会議がどんどん広がることで、いろんな方の意見を交換することで、熟議をしていくことで、いろんな価値観を持った方々や、いろんな年齢の、幅を超えた新しい価値を共有し、新しいルールがそこからまた生まれてくるのではないかと思っ、是非そういうことができたらなと思っ、この場を借りて発言させていただきました。

## 7 知事あいさつ

### 【長野県知事 阿部守一】

各グループから発表をいただいて、ちょっと話足りない人たちとか、まだ議論が足りない人たちとか、もっと発言したい人とかいると思っ、予定の時間ですので、これで終わらせてもらいますけれども、是非ちょっと皆さんのアイデアを活かすように我々していきたいと思っ、います。

私は今発表を聞いていてずっとメモをしていたんですけども、私が思ったことを少しお話させていただくと、まず直接的なご要望が山岳の話でありましたけれども、私は是非ですね、長野県は山の県だと思っ、います。そういう意味で山の日を制定したらいいのではないかと思っ、います。これは長野県としても山の日って作っていききたいと思っ、いますし、できれば国民の祝日にしてもらってですね、やっぱり山ということ、今海の日ありますよね。みどりの日ありますよね。山と緑といっしょくたにされている感じがするんですけども、緑と山は私は微妙に違っていると思っ、いますし、緑だとどこにで



も思い浮かべられちゃうんですけれども、山って、多くの日本人に山って聞いた時に、私アンケートしたことないですけれども、日本全国に山って言った時に、どこの地域、どこの県ですかって言ったら、おそらくほとんどの人が長野県ということになるのは確実ではないかと思っているので、是非そういうことも山小屋関係の皆さんと一緒にやりたいと思っていますし、予算の話もありましたけど、予算しっかり固めますが、私の問題意識ではいろんなものにも通じるので敢えてお話ししておく、今、県民税で森林整備のお金を皆さんから、個人の方は500円ずつ年間いただいています。で、これどうするかというのが、これから報告受けて私考えますけれども、その話もその山岳救助の話も、実は同じ部分があると思ってですね、誰が負担するべきかっていうところがあります。もちろん私も県の知事ですから直接的に負担をお願いするのは県民の皆様っていう形が一番私の権限が及ぶ範囲内ですけれども、長野県の山とか、長野県の緑で、実は恩恵こうむっているのは県民だけではないのは明らかですね、長野県の場合は。水資源は長野県だけではなくて下流の県にも恩恵を及ぼしていますし、あるいは山岳に来ていただく登山者の皆さんも、これは長野県だけではなくて世界から、日本中から来てもらっているわけで、そういう部分の負担というのは、私は本当はもう少し広いみなさんに負担していただくような仕組みを考えていかなければいけないのではないかと思っています。そうした思いを持ちながら、ただ、そこまで一足飛びに行かないから、知事がちゃんと予算つけるよっていうご要請は重々理解できますので、よく受け止めさせていただきます。

いろいろお話ありましたが、健康長寿の部分では、やっぱり家族の問題というのが少し出てきましたけれども、行政がさっきお節介しろと、行政がお節介したほうがいいんじゃないかという話もあったんで、よくよく私も考えなきゃいけないですけども、家族のあり方とかですね、結婚のあり方っていうものにもあまり行政が口出すなっていう考え方もあるわけですよ。で、どういう暮らし方をしようが勝手じゃないかという所もあって、そういう部分にどうアプローチするかというのは私の立場として非常に難しいなあと思います。ただこれは県民の皆さんから、やっぱりこういう社会がいいよねと、例えば3世代同居型が実は家族の絆にとっても、いろいろ社会的コストの削減という面でもいいんじゃないかみたいなことが県民の総意であれば、やっぱりそういう社会をつくりましょうという方向付けはできると思いますが、その所は多分行政が家族のあり方はこうだということを発信するのではなくて、ここは県民の皆さんが、いや、こういうことが必要じゃないのっていうのは、是非発信をしていただければ。結婚とかの問題も、私はそこに非常に似ている話で、私ももっと若い人達の出会いの場を作るっていうことは重要だと思うし、今県でもやっていますが、まだまだ、正直中途半端だと思います。そこにもっとつつこんでいった方がいいのかなって、行政が本当にやるべき仕事かどうかっていうのは、私は正直いささかの迷いがなくはないところでもありますので、またその辺は皆さんと意見交換ができればなと思っています。それから、お年寄りの知恵と力をもっと活かした方がいいんじゃないかというのは私のテーブルでもありましたし、私は高齢者という定義を長野県から変えていかなきゃいけないんじゃないかなと。長野県は健康長寿であるわけですから、お年寄りの何となく60歳とか65歳のところで線引きしているというのは、今日見ていると思うんですけれども、何となく社会の実態にはもう合わなくなってきたんじゃないかなという感覚を私は多くのところで受けていまして、特に長野県に住んでいると

ですね、どうもその年齢の仕切りは違っているんじゃないかなと思っています。そういう高齢者とかお年寄りというレッテルをはめるんじゃないかなとですね、やっぱり元気で健康でいていただきたい、いていただく間はやっぱりしっかり社会に貢献していただく、働いていただける、そういう長野県を是非作りたいかなと思っています。

それから食の話がありました、これは長野県は農業を大切にしていかなければいけない話ですし、健康長寿を守っていかなければいけない、農業と健康長寿を結び付けている部分というのは、この食の部分だと思いますので、食の部分も、今、県民会議新しい形でスタートさせて、具体的な取組をしていかなきゃかなと思っていますけれども、これはたぶん行政が旗立てるのは旗立ててもいいんですけれども、県民の皆さんと一緒に行動してもらわなければいけない分野だなと思っています。

今、県では「おいしい信州ふーど（風土）」というのをやっているんですけども、「おいしい信州ふーど（風土）宣言」というのは知っている人はどれ位いらっしゃるかなと思います。知らないという人。知っているという人。知らない人がわずかに多くて、知っているという人が最初手が挙がらなかったのが誰も知らないのかなと思って心配しましたけれども、少しは知られているようですけれども、長野県の豊かな気候を活かしているいろんな農産物があります。それを「プレミアム」「オリジナル」「ヘリテイジ」という形で発信していこう、消費拡大していこうというのが「おいしい信州ふーど（風土）」宣言ですけども、「プレミアム」というのは長野県の特産品ですよ。高級品質のもので、例えば信州プレミアム牛肉だとかですね、あるいはワインとかお米とか、日本酒とか原産地呼称管理制度というのをやっているんですけども、これも田中知事の時から一生懸命やっているんですけども、まだまだ全国的な認知度は低いかなと思っていますけれども、そういう部分から長野県の食材の高品質というのをしっかりアピールしていきたいと思っています。「オリジナル」というのは長野県で例えばレタスとかセロリとかですね、そういうものは日本の中で生産量が非常に多い食材ですし、あるいは信州サーモンだとか、長野県の独自に開発した品種というのが例えばナガノパープルとか、シナノゴールドとかですね、そういうものをオリジナルのものとしてしっかり発信していきたいかなと思っています。それから、「ヘリテイジ」というのは分かりづらいたんですけども、遺産という意味ですけども、伝統野菜とかですね、あるいはそばとかおやきとかですね、そういう長野県、信州独自のこれまでの伝統的な食を発信していこうかなと思っていますけれども、結構いろんなところでこの話とかしているんですけども、長野県の旅館とか長野県のレストランがあまり使っていないですよ。これは私もそう思っているんですけども、長野県の人たちが長野県のことをまずよく知らない。長野県の人たちが自分たちの暮らしを楽しんでいない。それではたぶん人を惹き付けられないですね。今の食の話もそうですけれども、うちはこんなにおいしいものを食べているんだよと皆に自慢をしてもらわなきゃいけないんですけども、なかなか地元の食堂に行っても置いていない。そこを足元のところから改善をしていかなければ、なかなか本当に発信力という話もありましたが、発信力のある県にはなっていないかなと思っています。

あと、土農工商連携事業の話がありました、これは是非やりたいですね。

最後、学生の方がこういう場をもっと作れという話がありましたけれども、私も全く同感で、これはたまたま県が音頭を取ってこういう形でやらせてもらっていますけれども、本当は皆さんが自主的にやっても結構で

す。県民の皆さんの意見は我々聞いていますので、じゃあ自主的にこんなことやって今日時間足りないから来週集まってやっていただいても結構です。こういうことをやったらこういうことがいいんじゃないかって出てきたというのを全然ぶつけていただいて構わないし、私はそういう議論好き、理屈好きの県民性を活かして、長野県を元気にしていくということが大事ではないかと思っています。今日も朝、企画部と中期計画どうしようかという話をしていて、私は少し横浜で福祉をやっていたので、横浜の時にアーバンデザインセンター横浜というのがあってですね、私もそこに入っていたんですけども、そこは夕方こういう形で、市役所の職員ももちろんいますね。それから企業の人たちとか大学の先生たちとかが集まって横浜の未来を語ろうとか、講師を呼んで勉強しようとかそういうことを一生懸命やっていました。本にもなっています。私も書いたりしていますけれども、これはやっぱり教養県・教育県の信州こそそういう活動に私はふさわしいんじゃないかなと思います。県としてもそういうきっかけづくりを是非していきたいなと思いますけれども、これは主役は行政ではないことは明らかであります。是非皆さんの中からですね、そういう動きを内発的に作っていただければ、我々もしっかりとバックアップをさせていただきたいと思っています。

結びに、私は今いろんな人の意見を聞きながらどういう計画にしようかなと正直頭を悩ませている状況だというのが現状です。それで今日も皆さんからいろんなヒントをいっぱいいただけたなと思っていますけれども、やっぱり今までの価値観は変えていかなきゃいけないと、今までの発想の延長線上ではないというのは、私は皆さんの今日のご発言を聞いて改めて思いましたし、それと同時にもう一つは長野県の強みとか良さということをもう一回ちゃんと見直さなきゃいけないというのも、かなり多くの皆さんの共通認識になっているんじゃないかなと思っています。そういう意味で、何となくきれい事が書いてある計画を作ることを私は潔しとしませんので、少し尖った形の表現を入れ込んだ新しい計画にしていきたいと思っていますし、今日皆さんからいただいたご意見は計画策定に役立てていきますが、皆さんに併せてお願いしたいのは、行政は計画を作るところは一生懸命やるけれどもその後はさっぱり何にもやってくれないじゃないかということをもっと多くの人から言われますし、私自身もずっと行政の仕事をやっていて自分自身もそう思うことが多いです。これは行政の悪いところで、計画を作ったり予算作ったりするところが仕事で、結果を出すところまでのしぶとさがやや欠けているんじゃないかなと思っています。長野県は是非結果を出すことにこだわりを持つという方針で私はやっていきたいと思っていますが、複雑な世の中で結果を出すのは、行政だけではできません。正直言って。産業を元気にするのも、それから医療とか健康づくりをしっかりしていくのも県民の皆さんの協力なしにはできない話ばかりでありますので、是非これは計画を作った後に、我々の方からこういう計画にしましたよと、こういう部分は是非皆さんと一緒にやりたいと、ここは県がしっかり責任を持ってやりますけどということで、発信をしていきたいと思っています。その際は是非皆さんもご協力をいただきたいと思いますので、この場をお借りして協力をお願いしておきたいと思っています。

大変有意義な時間を私自身も持たせていただきました。参加をいただきました皆様方に改めて御礼を申し上げまして、私のあいさつといたします。

本日はありがとうございました。